

産業用インフォメーションテクノロジー応用システム特集に寄せて



取締役
電力・産業システム事業所長
松山功武

情報通信技術やコンピュータ技術の飛躍的發展により、世界は、新産業革命とも言える大きな流れの中にある。一方、我が国の今日の厳しい経済状況において、企業は世界市場での存続をかけたグローバルな連携と企業全体としての効率化をあらゆる面から追求しており、その中核となる技術としてIT(Information Technology)がクローズアップされ、様々な形で駆使されてきている。

電力・交通・製造業・公共・ビル等の各種プラント及びシステムにおいては、尽きることのない合理化、省エネルギー化、環境対策、安全操業など継続した改善が必ず(須)である。一方、企業全体の視点からは迅速な経営判断に直結した操業の実現が急務であり、プラント及びシステムの情報化・システム化をより強力に推進するため、それを担う情報制御システムの変革への期待が高まっている。

三菱電機は、この変革の本質を見極めた開発を行うことで、独創的な製品とシステムの実現を目指している。特に情報制御システムにおいては、メガコンペティション時代に対応するための国際標準化・オープン化に対応するとともに、進展するITを産業用途として高機能化・高信頼化・高セキュリティ化を図った上で適用し、顧客の求める最適なソリューションを提案させていただいている。

この特集では、これらの取組の成果である代表的な製品とシステムを紹介する。具体的には、情報制御システムの構成要素である産業用計算機、計装制御コントローラ、マンマシンシステム、ネットワーク等において高性能化・高信頼化・国際標準準拠化に注力する一方、オブジェクト指向技術、ネットワークコンピューティング技術などを積極

的に取り込んできた。さらに、これらを基盤として、マルチメディア技術、インターネット/イントラネット技術など先端ITを駆使した数多くの情報制御システムを実現した。

例えば、DLR(Digital Light Processing)方式大画面表示装置を用いた双方向マルチメディア監視制御システム、国際標準UNIX規格に完全準拠したオープン分散UNIX計算機システム適用の大規模電力系統制御システム、河川や道路などを対象にしたイントラネット技術応用の新しい広域監視制御システムやデジタル映像配信技術応用の産業用CCV(Computer, Communication, Visualization)システム、上下水道各機場に分散された多様な情報をイントラネット技術やエージェント技術を利用することで統合する上下水道向けイントラネットシステムなど、どれもこれまでにない革新的な情報制御システムである。

当社の電力・産業システム事業所、系統変電・交通システム事業所では、電力・交通・製造業・公共・ビル等の各産業分野のプラント及びシステムエンジニアリングから情報制御システム及びその構成要素の開発・製造までを一貫して行っており、顧客の求める最適なシステム構築を行うエンジニアリングセンターの役割を担っている。

今後とも、進展するインフォメーションテクノロジーを産業用としての確に情報制御システムに取り込むとともに、保有する優れたプラント及びシステムエンジニアリング力との一体効果によって21世紀に向けたグローバル化社会実現に貢献していく所存である。より一層のご支援を賜うようお願い申し上げます。